計画研究　A03　(課題番号：06208101)

琉球・沖縄の歴史的文物の情報化

研究代表者：岩崎宏之・筑波大学・歴史･人類学系・教授

１．研究項目：A03　琉球・沖縄の歴史的文物の情報化

２．研究課題名：琉球・沖縄の歴史的文物の情報化(課題番号：06208101)

３．研究期間：平成６～９年度（1994～1997）

４．交付研究費：平成６年度　16,700 千円
平成７年度　28,500 千円
平成８年度　25,000 千円
平成９年度　21,800 千円　　合計　92,000 千円

５．研究組織(氏名：所属機関・部局・職)
（研究代表者）岩崎　宏之：筑波大学・歴史･人類学系・教授
（研究分担者）中村　　質　：別府大学・文学部・教授(平成７～９年度)
（研究分担者）宮地　正人：東京大学・史料編纂所・教授
（研究分担者）頼　　祺一：広島大学・文学部・教授
（研究分担者）仲地　哲夫：沖縄国際大学・文学部・教授(平成９年度)
（研究分担者）我部　政男：山梨学院大学・法学部・教授
（研究分担者）外園　豊基：早稲田大学・教育学部・教授
（研究分担者）石井　正敏：中央大学・文学部・教授
（研究分担者）片岡　一忠：筑波大学・歴史･人類学系・教授
（研究分担者）大塚　秀明：筑波大学・現代語 現代文化学系・助教授
（研究分担者）中野目　徹：筑波大学・歴史･人類学系・講師
（研究分担者）渡辺　英夫：秋田大学・教育学部・助教授(平成９年度)
（研究分担者）西村　圭子：日本女子大学・文学部・教授(平成９年度)
（研究分担者）亀井　明徳：専修大学・文学部・教授(平成９年度)
（研究分担者）中村　光一：上武大学・経営情報学部・講師

（研究分担者）楠木　賢道：筑波大学・歴史･人類学系・講師
（研究分担者）木部　和昭：　山口大学・経済学部・講師

６．研究目的

実証的歴史研究にとっていまや史料の情報化は不可欠であり、その有効利用についてはコンピュータの活用が必須となっている。沖縄においては、明治期以来の県外流出や戦禍のために多くの歴史的遺産が失われたが、その復元のために非常な努力が払われてきた。また史料の公刊にも多大の情熱が傾けられた結果、地域の歴史情報の集積としては、他の日本各地域に比べても遜色がないほどの域に達することが出来た。しかし、同時に史料が大量に集積されたことの結果、その有効利用のためには情報機器を利用せざるをえない状況となっている。戦後、沖縄においては主としてマイクロフィルムによって史料の復元が計られた。関係者の精力的な努力と関係機関などの協力によって収集されたマイクロフィルムは数10万コマとも云われるが、時の経過と共にフィルムが劣化したものもあり、また原史料が失われたものもある。史料の所在が推定されながらも、諸般の事情から調査・収集がなされなかったものも少なくはない。われわれは琉球・沖縄史研究の進展にとって歴史情報資源の活用はきわめて緊急かつ有効な手段であると考えているが、本研究は、これまでの研究成果の基礎の上に各種の歴史資料を包括的に調査収集し、関係資料の情報化と集積を進めて統合的把握を可能にすることを目指している。

琉球・沖縄史研究における情報化の課題のひとつは、これまでに収集されてきたマイクロフィルム資料の有効利用の手立てを開発することにある。歴史研究が依拠する史料は多面的にしてかつさまざまな形態があるが、その最も多くの部分を占める文献資料の保存・収集には従来マイクロフィルムを使ってきた。情報機器の発達によって現在ではこのマイクロフィルム資料のデジタル化が可能になり、大量の史料を迅速かつ的確に検索・出力する条件が生まれてきた。活字化された文字情報だけではなく、文献研究にとって不可欠な古文書資料などのイメージ情報を、コンピュータ上で処理する道が拓けてきたのである。本研究では、これまでに収集されたマイクロフィルム資料や本重点領域研究参加の各研究班が収集したマイクロフィルム資料をもとに、琉球・沖縄史に関する基本史料のイメージ情報を統合した画像データベースを作成する。具体的には総括班「研究支援応用情報システム」研究グループと連携してイメージプリンタ FDIP6200(富士写真フィルム社製品)を利用した16㎜マイクロフィルム・カートリッジによる画像データベースを構築する。この方式は、オートストッカーの利用による大量データの高速検索、画像の拡大／縮小、回転、トリミングなどの各種編集、ワークステーションシステムによる遠隔地間の通信などが可能であり、将来の普及が期待されるシステムとして本研究での採用が適当と考えた。またこの画像データベースの検索システムを、画像資料として利用し得る琉球・沖縄関係資料の総合的データベースと連動させることによって、琉球・沖縄史関係史料の統合的把握を容易にしたい。

７．研究実施計画

本研究では琉球大学等各種機関に収集されたマイクロフィルム資料や本重点領域研究参加の各研究班が収集する各種資料の提供をうけて琉球・沖縄史関係基本史料の画像データベースを作成し、史料所在情報データベースと連動させて琉球・沖縄史関係史料の統合的把握を可能ならしめる。

研究は先ずこれまでに琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立図書館、浦添市立図書館等に収集・保管されてきたマイクロフィルムの総括的な把握を目的として内容を詳細に明らかにする。これら各機関に所蔵されている大量のマイクロフィルム資料の概況を把握し、それぞれの収録資料の相互の関係や収集された経緯、異同・重複の関係、書誌的情報などを明瞭にし、マイクロフィルム資料の詳細な目録を作成する。

上記のマイクロフィルム資料の多くは関係機関の協力によって本重点領域研究が構築する琉球・沖縄史関係史料の画像データベース「琉球資料集成」の基礎資料として利用することが可能になったが、なかには撮影後の時間的経過や保存条件等によって劣化が甚だしいものも少なくない。再利用が可能なマイクロフィルム資料はデューブ・フィルムを作成して利用・保存するが、劣化が進行したものについては再撮影しなければならないものも多い。また画像データベースとしてコンピュータ検索を可能にするためには、16㎜マイクロフィルム・カートリッジへの転換作業が必要であり、これらの作業を進める。

本研究班は、上記既収集資料のほかに本重点領域研究の各研究班が調査・収集した各種の歴史資料を統合して情報化することを任務とする。また本研究班においても国立公文書館、内閣文庫、国立国会図書館、沖縄県立図書館、各大学付属図書館などの図書館・史料保存機関等に襲蔵されてきた琉球・沖縄関係文献の調査、収集を進める。

近世の琉球関係史料が多く含まれる東京大学史料編纂所所蔵島津家文書については、これまでにも琉球・沖縄史研究者らの努力によって関係史料の調査・収集が行われている、今回は東京大学史料編纂所の協力を得て改めて島津家文書全体にわたる史料目録を作成し、写真撮影を行う。島津家文書目これらの収集史料の全体わたる画像資料目録を作成し、琉球関係画像データベースの検索用データベースの作成を進める。

総括班ならびに各研究班との連絡を緊密にするために、定期的に研究会、連絡会議を開催する。

８．研究経過と研究成果の概要

平成６年度

本研究は琉球・沖縄史に関する各種の歴史資料の情報を包括的に調査収集し、関係資料の情報化と集積を進めて統合的把握を可能にすることを目指している。研究初年度の本年においては研究の基礎を固めることに留意し、まず琉球大学、沖縄県立図書館について収集マイクロフィルム資料の内容の検討を行った。また永年にわたって琉球・沖縄関係史料の調査・収集に携わってきた我部政男(研究分担者)の調査にもとづいてマイクロフィルム資料の収集を進め、デュープフィルムを作成した。また本年度は京都建仁寺両足院所蔵史料の調査を行ない以酊庵関係史料を写真撮影した。本研究での画像データベースの方式としてはイメージプリンタ FDIP6200(富士写真フィルム社製品)を利用することにし、総括班「研究支援応用情報システム」と共同して16㎜マイクロフィルム・カートリッジによる高速検索の研究開発をすすめた。このため収集した35㎜フィルムを、順次FDIP6200システムによる検索が可能となる16㎜フィルムへの転換を進めた。

平成７年度

研究２年度の平成７年度においては、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立図書館、浦添市立図書館等に収集・保管されてきたマイクロフィルムの詳細な把握を目的として内容を調査した。平成６年度

の調査によって、これら各機関に所蔵されている大量のマイクロフィルム資料の概況が確認されたが、それぞれの収録資料の相互の関係や収集された経緯、書誌的情報は明瞭でないものがあった。本年度はこれら既収集資料について詳細な調査を行ない、マイクロフィルム資料相互の異同・重複の関係を明らかにして目録を作成した。東京大学史料編纂所所蔵島津家文書の目録作成、写真撮影の作業は順調に進展した。また中村　質(研究分担者)の努力によって長崎県立図書館が所蔵する長崎貿易関係資料など膨大な「近世環シナ海域関係資料」の調査、写真撮影が進展した。これらの収集史料をもとにマイクロフィルム検索用データベースを試作し、またその一部は CD-R あるいは MO などの媒体に収めて利用するためにデジタル化を図った。。

平成８年度

平成６・７年度の調査によって、東京大学史料編纂所、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立図書館等に収集・保管されてきた大量のマイクロフィルム資料の概況が把握されたが、研究３年目の平成８年度には既調査収集資料の点検や各種マイクロフィルム資料の所在の確認の徹底を眼目とし、また既収集各種マイクロフィルム資料の 16 ㎜マイクロフィルム・カートリッジへの転換作業を進めた。資料の収集では筑波大学付属図書館、鹿児島大学付属図書館、尚古集成館、鹿児島市立博物館等の所蔵する琉球関係資料を調査し、写真撮影を行なった。東京大学史料編纂所所蔵島津家文書の目録作成、写真撮影の作業は本年度をもってほぼ完了した。

本領域研究の各研究班によって調査収集された琉球・沖縄史関係史料ならびに環東シナ海地域間交流史に関するマイクロフィルム資料の提供を受けて、書誌情報等を付した詳細な目録を作成し、また画像データベースの検索データベースと連動する史料所在情報データベースの作成をすすめた。

平成９年度

平成９年度は本領域研究の最終年度であり、平成６年度以降の研究成果の取りまとめにあたった。これまでに収集を終えた琉球・沖縄史関係資料の 35 ㎜マイクロフィルム(いずれも 100 フィートデュープフィルム)は 395 本で、作成した 16 ㎜マイクフィルムは新規の撮影資料を含めて 215 本である。イメージプリンタ FDIP6200(富士写真フィルム社製品)に接続して画像の自動検索を行なうためのオートストッカ(AS-10)に格納できる 16 ㎜マイクロフィルム・カートリッジは１ユニットあたり 200 本であることから、本領域研究ではこれに収容可能な 200 本のフィルムをもって画像データベース「琉球史料集成」を構成することにし、画像検索用データベースを作成した。なお絵図資料などの高画質を必要とする資料や利用度の高い資料などで既にデジタル化した歴史情報には、CD-ROM あるいは MO 等のメディアによって公開・提供するものもある。画像データベース「琉球史料集成」はインターネット等の情報ネットワークにのせて遠隔地間の通信による公開を図るため、総括班「研究支援応用情報システム」研究グループと連携してユーザーインターフェースを完成させ、このシステムは平成９年度において試験的運用を開始している。（研究業績目録省略、13.03「研究論文等研究業績一覧」を参照のこと）